

第5章 わかくす部門小学部 Ⅲ課程の研究

～国語科の単元別指導計画表の活用と年間指導計画の見直し～

1 研究の方法

4月	○昨年度の研究内容と今年度の計画についての確認
5月	○単元別指導計画表を活用した研究授業に向けて検討 ・単元別指導計画表の記入方法や文言の整理 ・単元別指導計画表と学習指導案のつながりについて検討
6月	○研究授業・授業研究会の実施
7～8月	○授業研究会を踏まえた単元別指導計画表の課題の洗い出し
9～12月	○国語科の各単元の見直し ・低学年グループと高学年グループで協議 ・低学年、高学年の年間指導計画の系統性を検討

2 研究の経過

今年度は、昨年度作成した年間指導計画と単元別指導計画表を基に授業実践することで、設定した単元の妥当性と育成すべき資質・能力の三つの柱（以下、三つの柱）の視点に立った授業づくりにおける単元別指導計画表の有効性を検証した。また、小学部低学年グループ「やってみよう」の単元において研究授業と授業研究会を行い、「育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った単元目標・学習内容・評価規準の設定が妥当であったか」「手立ては、主体的・対話的で深い学びの視点に立ったものだったか」について、肢体不自由教育部門の全職員で、意見を出し合ったり、改善点を共有したりした。また、三つの柱の視点で単元目標と評価規準を整理することの重要性についても検証した。さらに、Ⅲ課程グループの日々の授業実践を通して、各単元の内容や単元配列、時数のバランスに対する課題が明らかとなり、授業研究会と日々の授業実践の反省を基に、再度、年間指導計画を検討することとした。

また、本研究を本校のカリキュラム・マネジメント概念図のPDCAサイクルに基づき、「Plan:単元別指導計画表、学習指導案の作成」「Do:研究授業及び授業研究会の実施、授業実践」「Check:各担任による授業実践後の評価、研究会における意見の共有」「Action:年間指導計画の見直し」の流れで行い、研究を進めることにした。

研究仮説

単元別指導計画表を活用した授業を行うことで、育成すべき資質・能力の三つ柱に沿った授業実践、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を行うことができるようになるのではないか。また、単元別指導計画表を使って、授業評価とそれを基にした年間指導計画表の作成を行うことで、児童が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」の視点に立って年間指導計画の見直しへつなげることができるのではないか。

3 研究の実際

(1) 「Plan:単元別指導計画表、学習指導案の作成」

(ア) 単元別指導計画表の作成 (資料1参照)

単元別指導計画表の作成に当たっては、肢体不自由教育部門小学部Ⅲ課程で実践を行いやすいよう様式を整理すること、また、「三つの柱を総合的に育むこと」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践につなげていくこと」が目的であることを踏まえた上で記入方法の共通理解を行った。

①単元目標の設定について

年間指導計画では、小学部Ⅲ課程は、低学年グループが1・2段階の内容を、高学年グループが2・3段階の内容を扱うことにしている。そのため、単元の目標がどの段階のものであるのかが分かるように、書式と書き方を整理した。さらに、その中でも特に大切にしたい単元目標が分かるように、セルを黄色で塗りつぶすなどして記載した。また、1・2段階のどちらも目標を設定し、グループ内で実態差のある児童が在籍しているという点を考慮した。

②学習内容の記入について

ここでは「○」で学習活動を記し「・」でその活動ごとのねらいを記すようにした。また、その学習のねらいと単元目標(育成すべき三つの柱)とのつながりを明確にするため、ねらいの後に「【 】」で学習指導要領の目標の観点を記号化して示した。

③手立てについて

ここでは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの視点に立って手立てを記入した。また、本校小学部の「育てたい力」も踏まえて考えた。

(イ) 学習指導案の作成 (資料2参照)

学習指導案の作成にあたっては、上記の記入方法と関連させて、単元別指導計画表とのつながりを意識した。(図1参照)

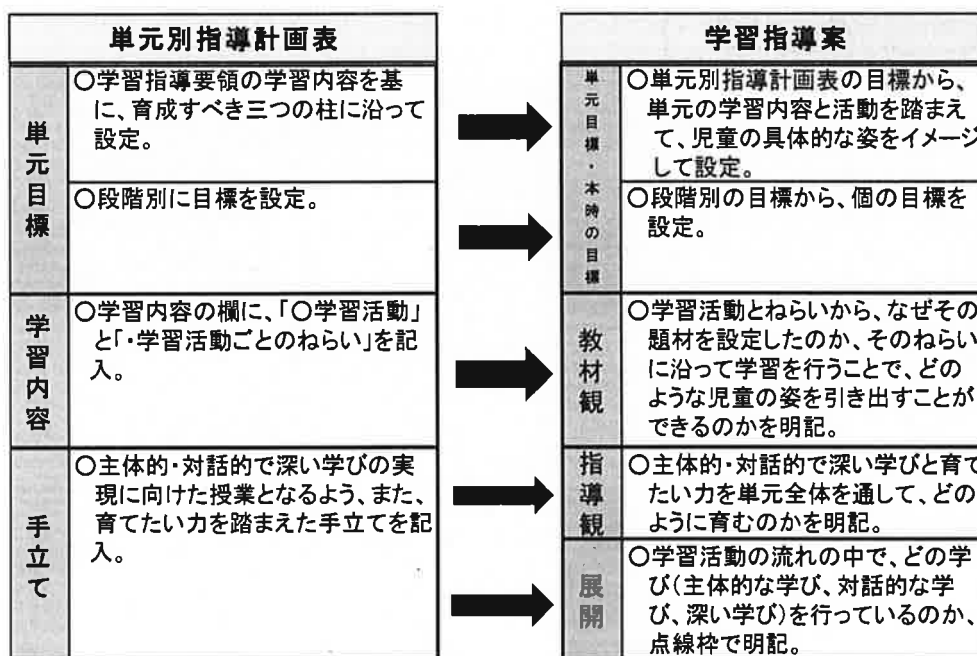


図1 単元別指導計画表と学習指導案のつながり

(2) 「Do:研究授業及び授業研究会の実施 (6 / 18)、授業実践」

(ア) 研究授業及び授業研究会の実施

三つの柱で整理をした単元別指導計画表を活用した授業実践を行った。単元目標や評価規準等を整理して実践したことで、それぞれの児童にどのような姿を目指させるのが明確になり、授業者同士での共通理解もスムーズに行うことができた。また、主体的・対話的で深い学びを促すために「学習のめあてや流れの明確な提示」、「友達の活動の様子を見たり、自分の活動を振り返ったりする場面設定」「児童の興味を引く教材・教具の活用」を工夫した。

授業研究会では、グループ協議として「育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った単元目標・学習内容・評価規準の設定が妥当であったか」「手立ては、主体的・対話的で深い学びの視点に立ったものだったか」について、肢体不自由教育部門の全職員で検討をし、良い点及び改善点についての意見を共有した。それらを、単元・授業レベルでの評価、年間指導計画のレベルでの評価として一覧にしたものが下記の通りである。(表1参照)

表1 授業研究会での意見 (良い点・改善点)

育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った単元目標・学習内容・評価規準の設定が妥当であったか		見直しの視点	
	良い点	改善点	
単元・授業レベルでの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に沿った目標設定だけでなく、授業の中での児童のめあてを提示していることで「主体的な学び」につながっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードとなる言葉（登場人物やせりふ）は文字化してよいのではないか。また、文字の大きさによって、声の大きさも変化させるなどの手立てによって、今後の学習も幅も広がるのではないか。 ・1段階の児童の活動場面が少ないのではないか。 ・学びに向かう力、人間性等の評価は毎時間行うべきなのか、どのような形で評価するのが難しい。 	(c)
年間指導計画レベルでの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「きらめきフェスタ」の前に、劇あそびを行うことで、自分の役割の中でせりふを言うなどの学習ができ、つながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元においては、音声と文字を結びつけて学習をするという学習内容が必要なのではないか。「C読むこと」の内容について検討が必要。 →年間を通した学習内容(A聞くこと・話すこと B読むこと C書くこと)のバランスの検討。 	

手立ては、主体的・対話的で深い学びの視点に立ったものだったか			見直しの視点
	良い点	改善点	
単元・授業レベルでの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に沿った目標設定だけでなく、授業の中での児童のめあてを提示していることで「主体的な学び」につながっていた。 ・タブレット端末を使用して学習活動を振り返ることで、客観的に活動を見て、友達の良さに気付く様子が見られた。(対話的な学び) ・学習の中で、児童が手本となったり、リードしたりしていた。(対話的な学び) ・目標が多岐にわたるグループでも集団で授業を行うことによって、対話的な学びにつながることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学びをより充実するためには、環境設定として、児童の座席を半円形に配置して互いの様子が見られるようにした方がよい。 ・深い学びへとつなげるためには、ビデオで振り返って、もう一度、劇を行ってもよかったのではないかな。そのためには、わらべうたの学習内容を精選する必要がある。 	
年間指導計画レベルでの評価		<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」という単元名は子どもたちにとって、イメージしづらい。 →単元名や題材名の文言の整理。 	(a)
		<ul style="list-style-type: none"> ・劇の練習が、あと3時間ほどあると、学びが深まっていくのではないかな。 →学習内容の精選、指導時数の検討。 	(b)

(イ) 授業実践

低学年グループと高学年グループのそれぞれで、年間指導計画に沿って、単元別指導計画表を作成し、実践を積み重ねた。また、授業後には、それぞれのグループの担任で授業反省を行い、単元別指導計画表の反省欄への記入を行った。

(3) 「Check:各担任による授業実践後の評価、研究会における意見の共有」

(ア) 各担任による授業実践後の評価、研究会における意見の共有

授業者は、授業実践後に単元別指導計画表の反省欄の記入を行い、授業に対する評価を行った。これらの反省を踏まえ、再度、研究会やⅢ課程職員からの聞き取りにより、国語科のそれぞれの単元について課題を明らかにした。(表2参照)

表2 単元に対する課題

<単元名> ・学習内容		課題	見直しの視点
低学年	高学年		
<なかよくなるよう> ・あいさつしよう ・わたしたちのいちにち	<大きな声でいってみよう> ・自己紹介をしよう ・たずねてみよう ・遠足の話しよう	・年度初めの学習として、あいさつや自己紹介を行う学習活動は、日常生活の指導や生活単元学習の国語科の内容としても含まれるため、国語科の教科として指導を行う必要はないのでは	(b)

		ないか。	
<p><やってみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた、まねをしよう ・劇遊び 	<p><やってみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきなうた ・おはなしを聞こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の深い学びへとつなげるためには、時数が足りないため、時数を増やすか内容を精選する必要がある。 	(b)
		<ul style="list-style-type: none"> ・低学年と高学年のどちらにもある単元であるため、学習内容の系統性を検討する必要がある。 	(d)
<p><はなしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おでかけするときの言葉 ・話しましょう聞きましょう 	<p><はなしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おでかけするときの言葉 ・話しましょう聞きましょう ・電話ではなそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を積み重ねてきている高学年になると、「おでかけするときの言葉」に関する指導が生活単元学習の指導と重複しており、学習内容が似通ってしまうため、学習内容の整理が必要ではないか。 	(b)
<p><つくってみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順 ・動作や音声を表す言葉 	<p><つくってみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順 ・動作や音声を表す言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・「手順」に関する指導よりも、順序に沿って動いたり、順序立てて話したりすることに重点をおいてはどうか。 	(b)
		<ul style="list-style-type: none"> ・「つくってみよう」の単元として、調理の活動だけでなく、制作等も含めて考えていいのではないか。例えば、おもちゃの作り方などで、「順序立てて読み、理解して、作る」などの活動も想定でき、児童の使う言葉の広がってくると考える。 	(b)
<p><チャレンジしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなもので書いてみよう ・使ってみよう買い物の言葉 ・覚えて言ってみよう 	<p><チャレンジしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなもので書いてみよう ・使ってみよう買い物の言葉 ・覚えて言ってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・「C書くこと」の学習内容がこの単元のみには含まれていないため、年間を通して、どの単元でどのような題材で指導するかを整理する必要があるのではないか。 	(c)
		<ul style="list-style-type: none"> ・「使ってみよう買い物の言葉」と「覚えて言ってみよう」は、生活単元学習の学習とのすみ分けの難しさ、繰り返しの学習になってしまうことから、外してもいいのではないか。 	(b)

(4) 「Action:年間指導計画の見直し」

(ア) 年間指導計画の見直し

見直しの視点として、以下の4点を取り上げた。

(a) 単元名や題材名の文言の整理

(b) 学習内容の精選

- ・学習内容の精選、適切な指導時数の確保
- ・教科別の指導(国語科)で扱う内容と各教科等を合わせた指導(生活単元学習)で扱う国語科の内容の整理

(c) 思考力・判断力・表現力等「A聞くこと・話すこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の学習内容のバランス

(d) 学習内容の系統性

- ・低学年、高学年のそれぞれの年間を通した学習内容の系統性
- ・低学年から高学年への学習内容の系統性

これらの視点に対する意見が「(3) (ア) 授業研究会での意見の共有、(イ) 各担任による授業実践後の評価、研究会における意見の共有」において、多く挙げられていることが分かる。

(a) 単元名や題材名の文言の整理

表1で挙げられていたように、日々、授業実践を行う授業者からも「単元名や題材名が抽象的な表現で分かりづらい。学習がイメージしづらい。」という意見が挙げられていた。そこで、全体を通して分かりやすいように文言を整理することとした。

(b) 学習内容の精選

「学習内容の精選、十分な指導時数の確保」については、本研究で授業実践をした「やってみよう」の単元において、低学年、高学年共に“わらべうた”を扱う学習内容を設定していたが、この単元の最も重視したい“劇”の学習活動が十分に行えないという意見が挙がっていた。そこで、最も児童に学ばせたい学習内容を精選することで、その学習に対する指導時数を十分に確保することとした。また、その他の単元においても、見直しを行っていく中で、国語科の教科として必要な学習内容は何なのか、その学習は国語科として扱う学習内容なのか、個別の課題として扱う学習内容なのか、もしくは、他の教科等の中で行う学習内容なのかを整理しながら、学習内容の精選を行った。

「教科別の指導(国語科)で扱う内容と各教科等を合わせた指導(生活単元学習)で扱う国語科の内容の整理」については、「はなしてみよう」「チャレンジしてみよう」の単元において、「生活単元学習の学習内容と重複している」、「生活単元学習の学習活動と似通ってしまい、授業者も児童も分かりづらい」という意見が挙げられた。そこで、今一度、生活単元学習の学習内容とのすみ分けを行い、学習内容を精選して、新たな単元を設けることとした。

(c) 思考力・判断力・表現力等「A聞くこと・話すこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の学習内容のバランス

昨年度の年間指導計画の作成段階でも、年間を通して配列した単元に学習指導要領の内容に過不足がないか確認を行ったが、授業実践後の単元評価で行うと、「『B書くこと』の内容に対する指導が不足しているのではないか」、「『C読むこと』の内容として、どのような指導や学習活動が必要なのかを整理しなければならない」という意見が挙げられた。「B書くこと」の内容に関しては、肢体不自由教育部門に所属する児童にとって、手指の不器用さや障害の状態によって書くことが困難であるという理由から単元や題材を設定することに苦慮していたが、確実に学習内容を担保するという点を重視すると、単元や題材を新たに設定し、年間指導計画の中に加える必要があると考えた。学習場面においては、合理的配慮によって個人の実態差に対応できるのではないかとということも共通理解した。このような流れをもって、新たに設定した単元に「B書くこと」の学習内容を設定することとした。また、「C読むこと」の学習内容に関しては、年間指導計画に「<単元名>、○題材名・学習内容」を明記して、指導内容にずれが生じないようにした。

(d) 学習内容の系統性

「低学年、高学年のそれぞれの年間を通した学習内容の系統性」に関しては、年間を通して学習が積み重ねられ、ステップアップしていけるように、学習指導要領を読み込んだり、1段階から3段階の内容の変化を捉えたりして、単元や題材、学習内容を設定した。また、「低学年から高学年への学習内容の系統性」に関しては、低学年と高学年のどちらにもある「劇をしよう」の単元において、6年間同じ単元名で学習を行うことになるため、低学年と高学年のそれぞれでねらいたいことを整理して、学習内容に系統性をもたせている。

4 まとめと今後の課題

本研究を通して、単元別指導計画表の作成と活用についてのアンケートの中で、「単元別指導計画表を作成することで、単元目標、学習内容、評価まで考えて整理できるため、実践に結びつけることができる」「学習指導要領を根拠とした児童にねらいたいことを意識して日々の授業づくりができる」など成果を感じる回答を得た。日々、単元別指導計画表を活用した授業実践を積み重ねていくことで、新学習指導要領に示されている育成すべき三つの柱に沿った目標設定と評価、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりにつながっていると考えられる。引き続き、単元別指導計画表を活用した授業実践を通して、教員の指導力向上、教育活動の質の向上に努めたい。

PDC Aサイクルに基づいた年間指導計画の見直しにおいては、単元別指導計画表の反省欄を活用したり、授業者の考えを反映させたりしながら、改めて、国語科の教科指導として必要な学習内容を取り上げ、単元として整理することができた。また、出来上がった年間指導計画表はより良いものとなったが、これを作成する過程で、教員間で学習指導要領を読み込んだり、小学部の国語科として必要な学習は何なのかを考えたりしたことで、意見を共有したり、今後の指導に向けて、共通理解を図ることができ、それぞれの専門性の向上にもつながったと感じる。

今後の課題としては、2点あり、1点目は、国語科の内容をどの指導形態で扱うのかを整理することである。現段階では、教科別の指導で扱う内容を整理したままで、他の指導形態で扱う内容との比較、関連の確認までは至っていない。まずは、国語科と生活単元学習で扱う内容との比較、関連の確認を行う必要がある。2点目は、他の教科等の単元別指導計画表の作成と活用である。算数科については、昨年度作成した年間指導計画表に沿って、算数科の単元別指導計画表を作成した上で活用し、生活単元学習については単元別指導計画表を記入するにあたっての記入方法や様式の検討を行う。他の教科等においても、単元別指導計画表を活用した授業実践が進められるようにしていきたい。

国語科指導計画表 (低学年)		単元名	やってみよう	指導時期	(6)月～(7)月
単元計画		①「わらべうた・まねをしよう」 ②「劇遊び」			
全 (6) 時間					
小学 5 年 5 月 1 日					
単元目標		◎ 周りの人と一緒に仲良く活動することができる。(◎他者との関わり ウ集団への参加)		2段階	
A (知・技)	◎ 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表現していることを感じることができる。【ア-ア】 ◎ 昔話などの話し掛けを通じて、読み聞かせを聞くことができる。【イ-ア】	◎ 身近な人の話し掛けや余話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表現していることを感じることができる。【ア-ア】 ◎ 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりすることができる。【イ-ア】		◎ 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべることができる。【ウ-ア】	
B (思・判・表)	◎ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすることができる。【ウ-エ】 ◎ 発語等によって、意思を伝えようとする。	◎ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることができる。【ウ-エ】		◎ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすることができる。【ウ-エ】	
C (学・人)	◎ 発語等によって、意思を伝えようとする。	◎ 発語等によって、意思を伝えようとする。		◎ 発語等によって、意思を伝えようとする。	
題材 ①	【学習内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。 ○ わらべうたを聞く。歌詞をまねて言う。【A①】 ○ 登場する動物の鳴き声やその名前を知る。【A②】 ○ 登場する動物の鳴き声やリズムの面白さに気付く。【A③】 ○ 動物の鳴き声を聞いて、その名前を答えたり、鳴き声をまねたりする。【B①】 ○ 鳴き声を聞いて、どんな動物が出てくるのかを想像する。【B②】 ○ 鳴き声をまねて遊ぶ。【A④⑤】	【・手立て ※指導上の留意点等】 ・ 「何が出てくるかな?」と問いながら教師の手の中に隠した人形を少しずつ見せ、期待感をもちさせる。 ・ 「チュウチュウ、ねずみだよ」などと問いながら、人形を動かして、鳴き声やねずみの動きに注意を向けさせる。 ・ 発語を強調したり抑揚をつけたりして言うことで、言葉のリズムや響きの面白さに気付かせる。 ・ 「にやーにやー」などの鳴きまねと手招きの仕草をするなどのヒントを出して、動物をイメージさせる。 ・ 「にやー」を話し掛けたり、名前を呼んで話し掛けたりしながら、鳴き声をまねることに気付かせる。		【教材】 「にぎりばつちり」 ・ 動物の絵、人形	
題材 ②	【学習内容】※A～Cの何を取り扱う内容なのかを明記する。 ○ 教師の読み聞かせを聞く。【A①②③】 ○ お話の登場人物や大まかな内容を知る。【A④⑤】 ○ 劇を演じる。【A⑥⑦⑧】 ○ 登場人物の動きをまねたり、せりふを言うたりする。【B①②】 ○ 教師や友達と言葉を使ったやりとりを楽しむ。【A⑨⑩】	【・手立て ※指導上の留意点等】 ・ ペープサートの絵を見せたり、登場する動物の鳴き声を繰り返して言うことで、次にどんな動物が出てくるかに期待をもちさせる。 ・ 「うんとこしょ、どっこいしょ」のせりふを強調して言い、お話の面白い部分が始まることに気付かせる。 ・ 手招きしながら「おーい、ねこの○○君」と大きな声で呼びかけたり、みんなで友達の名前を呼ばせたり、呼びかけたりして、手を挙げてせりふを言わせたりして応えさせる。 ・ かぶを引く前に「いくよ」などと声を掛けたり、「うんとこしょ」の後に意図的に間を空けて、掛け声が始められることに気付かせる。 ※教師の「うんとこしょ」の言葉の後に、子供が思わず「どっこいしょ」と言いだくなるように楽しく声を掛けさせる。 ・ 「うんとこしょ、どっこいしょ」のせりふを言うときや、かぶを引くときに、教師が合図をして全員で声を出させたり、一緒に引く張る動きをさせたりすることで、友達と関わる楽しさに気付かせたり、みんなと一緒に声を出すことを意識させたりする。		【教材】 「おおきなかぶ」 ・ ペープサート ・ お面 ・ しっぽ ・ かぶ ・ タブレット	
単元評価	A (知識・技能) ① わらべうたや劇に登場する人形に興味をもつて注目したり、「あー」などと気付いたような発音が見られたりしたか。 ② 登場する動物の鳴き声や繰り返して出てくる言葉に気付いて、まねて言おうとしたり、表情を変えたりすることができたか。	B (思考・判断・表現) ① 鳴き声や手招きなどのヒントを手掛かりに顔などの動物や、登場人物の動きをイメージすることができたか。 ② 「うんとこしょ、どっこいしょ」のせりふを聞いて、引く張る動きをしたり、一緒にせりふを書いたりすることができたか。	C (主体的に学習に取り組む態度) ① 教師の読み聞かせを聞いたり友達と劇をしたりして、自分から声を出したり、言葉や動きで自分なりに表現しようとしたりする姿が見られたか。	C (主体的に学習に取り組む態度) ① 教師の読み聞かせを聞いたり友達と劇をしたりして、自分から声を出したり、言葉や動きで自分なりに表現しようとしたりする姿が見られたか。	
指導時数、指導時期	◎	◎	◎	◎	
項目	評価 (◎○△)	◎	◎	◎	
目標、評価、学習内容、手立て	◎	◎	◎	◎	
教材、場の設定	◎	◎	◎	◎	
育てたい力	◎	◎	◎	◎	

国語科学習指導案

日 時	令和元年 6月18日(火) 2校時(9:55~10:35)
場 所	肢体不自由教育部門小学部5組教室
児 童	小学部5組 4名 (1年生男子2名 3年生男子2名)
指導者	森美紗樹(T1) 國本るみ子(T2) 柏原眞由美(T3)

1 単元名 「やってみよう」

2 単元設定の理由

本学級は、肢体不自由教育部門小学部に所属する男子4名で、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えた教育課程で学習している。これまでの国語科の授業で見られた児童の実態として、児童Aは、絵本の読み聞かせを楽しみ、物語の大まかな内容を理解して簡単な質問に答えたり、物語に出てくるせりふの一部を覚えて言ったりすることができるが、自分で場面を想像しながらせりふを言うことは難しい。児童Bは、絵本の読み聞かせを楽しみ、物語を聞いてどんな登場人物がでてきたかなど、簡単な質問に答えることができる。また、絵や写真を見て、物の名前を答えたり、「〇〇している」と簡単な言葉で伝えたりすることができるが、うさぎを見て「ぴよぴよ」と表現するなど、イメージしたことを言葉で表現することは難しい。児童Cは、絵や写真を見て野菜や果物、動物などの名前を正しく答えることや、絵本の読み聞かせを楽しみ、教師の「手をあげて」など簡単な指示を聞いて身体を動かすことができる。しかし、教師の簡単な質問に対して、そのまま同じ言葉を返してしまうことが多い。児童Dは、教師に向かって、「あー」「はー」など声を出したり、笑顔を見せたりすることができるが、教師が示したのや言葉に注意を向けて聞くことが難しく、登場した物をじっと見たり声を発したりすることがあまり見られない。また、名前を呼ばれて視線を向けたり振り向いたりすることが確実ではない。このように本学級は児童の実態差が大きく、国語科において扱う内容が1~3段階と多岐に渡り、同単元において一人一人に合わせた指導の目標や手立てを設定する必要がある。

本単元「やってみよう」では、特別支援学校小学部学習指導要領国語科の「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項、「思考力、判断力、表現力等」のC読むことの内容を踏まえ、「わらべうた」「劇遊び」の題材を扱う。「わらべうた」では、教師の言葉や示すものに注目すること(1段階)、言葉による遊びの中で、言葉による表現に親しむこと(2段階)、言葉を聞いて自分なりに表現すること(3段階)をねらいたい。これらのねらいを達成するために、教材「にぎりぱっちり」を扱う。「にぎりぱっちり」は、いろいろな動物の名前と擬音語が登場するわらべうたである。動物の名前に興味や関心をもったり、犬は「わんわん」ひよこは「ぴよぴよ」など、言葉の響きやリズムを楽しんだりすることに効果的だと考え選定した。「劇遊び」では、言葉の繰り返しを楽しんだり、次の場面を期待したりすること(1段階)、読み聞かせを聞いて、登場するものや動作を思い

浮かべたり模倣したりすること（２段階）、言葉を聞いて想像を広げたり、工夫して表現したりすること（３段階）をねらいたい。教材として、繰り返しのせりふがあり、流れがパターン化されていてストーリーの展開が捉えやすい「おおきなかぶ」を扱う。友達を呼び掛ける場面では、友達と言葉でのやりとりをすることができる。また、かぶを引っ張る場面では、全員で声を出したり一緒に引っ張る動きをしたりすることで、友達と関わる楽しさに気付くことができると考え選定した。これらの題材、教材を扱うことで、特別支援学校小学部学習指導要領国語科の１～３段階の内容を学ぶ児童一人一人に合った授業のねらいを達成することができると思う。

指導にあたっては、言葉遊びとして、「わらべうた」を授業の導入で扱い、その後に「劇遊び」に取り組むこととする。まず、「わらべうた」では、教師が見本を見せたり、教師のまねをして一緒に声に出させたりすることで、わらべうたに興味をもてるようにする。１段階の児童においては、教師がわらべうたを歌いながら、教師の手の中から動物の人形を登場させることで、次は何が出てくるのかを期待感をもちながら教師に注目できるようにする。また、「ぴよぴよ」「わんわん」など、抑揚をつけながら言うことで、言葉のもつ音やリズムを楽しんだり、まねするように声を出したりすることができるようにさせたい。２段階の児童においては、「ぴよぴよ」などの擬音語を聞いて、どんな動物が登場するかを考えさせる。「わんわんと鳴く動物は何かな」と質問したり、手の中から動物の姿を一部見せたりすることで、教師のヒントから登場する動物を考えることができるようにさせたい。３段階の児童においては、自分で問題を考え、教師の代わりに友達の前で問題を出させる。今までの例を示したり、教師と一緒に考えたりすることで、わらべうたに親しみながら、自分なりに表現することができるようにさせたい。「劇遊び」では、児童が物語に興味をもてるように、ペープサートを用いて読み聞かせを行う。登場人物や物語の流れを捉えた後、一人一人担当の役を決めて、劇をさせる。１段階の児童においては、教師が繰り返し出てくるせりふを強調して言ったり、目の前で動作を示したりすることで、教師の言葉や動きに注目できるようにさせたい。２段階の児童においては、登場人物のせりふを読ませたり動きを考えさせたりする場を設定する。教師や友達の姿を見てまねしたり、教師と一緒に考えたりすることで、登場人物の動作を思い浮かべたり、言葉や動きで表現したりする楽しさに気付かせたい。３段階の児童においては、自分の役のせりふを考えたり、自分なりに演じたりさせる。教師が見本を見せたり、登場人物の動きをしながら場面を想像したりして、場面に応じた登場人物のせりふや、工夫した言い方を考えさせたい。また、劇を練習している動画を見ながら自分の姿を振り返らせることで、自分なりに考えながら工夫した表現ができるようにさせたい。以上のように、各段階に合わせた指導を行うことで、児童一人ひとりの学びを深めることを大切にする。本単元の最後には、「発表会」を行い、他クラスの児童に劇を発表する。今まで学習したことを活用し、相手に自分の思いや表現が伝わったことへの達成感を実感させたい。

3 単元の目標

【１段階】

- 教師や友達の言葉に注意を向けることができる。（知識及び技能）
- 教師の読み聞かせを聞いて、次の場面を楽しみにしたり、まねするように声を出したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 発語などによって、意思を伝えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

【2段階】

- わらべうたや読み聞かせを聞いて、繰り返し出てくる言葉やせりふを模倣することができる。(知識及び技能)
- わらべうたや読み聞かせを聞いて、登場するものや動作を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 絵本に出てくる言葉や登場人物の動作を、自分なりに表現する楽しさに気付く。(学びに向かう力、人間性等)

【3段階】

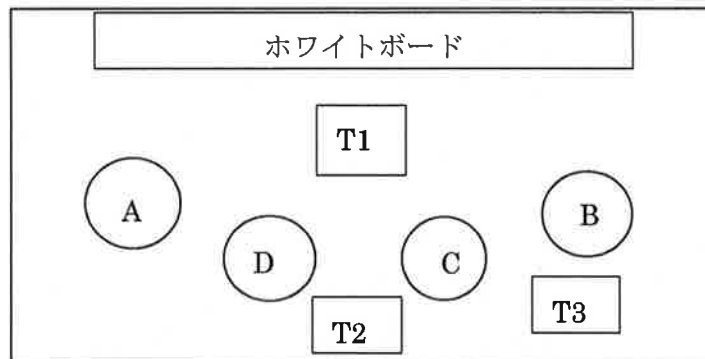
- わらべうたや絵本の読み聞かせを聞いて、言葉のリズムや響きに親しむことができる。(知識及び技能)
- 登場人物になったつもりで演じることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉を使ったやりとりを楽しみ、自分の思いを伝えようとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画 全7時間

題材/時数	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
①わらべうた 「にぎりば っちり」	・教師の言葉に 注目したり、ま ねたりする。	→	・教師や友達と 一緒に擬音語 を言ったり考 えたりする。	→	・動物を表す擬 音語を自分な りに考えて言 う。	→	
②劇遊び 「おおきな かぶ」	・物語に興味を もつ。	・内容、登場人 物を知る。 ・役を決める。	・登場人物の順 番や動きを 確認する。	・せりふを読 む。	・自分のせりふ と動きを確 認する。	・劇の練習をす る。	・みんなの前 で発表す る。

5 本時の学習

- (1) 児童の実態と本時の目標、手立て、配慮事項、評価基準 (別紙①)
- (2) 学習の展開 (別紙②)
- (3) 場の設定



(1) 児童の実態、目標、手立て及び評価

(別紙①)

児童	実態	目標	手立て(・)及び配慮(※)	評価
A児	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名を読むことができるが、時間がかかったり読み間違いをしたりすることがある。 ・絵本の読み聞かせを聞いて、登場人物を答えたり、大まかな話の内容を答えたりすることができる。 ・「○○をどうする」などの指示を聞いてそのとおりに行動することができる。 ・知っていて話す言葉であっても、意味が十分分からず使っているものがある。 ・意味が分からない言葉について、自分で考えることは難しく、すぐに教師に尋ねることが多い。 ・感想などを、自分で考えて述べることに難しい。 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや劇遊びを楽しむ、歌詞やせりふを一人で言うことができる。 <p>【3段階】</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物になりきってせりふを言ったり、動きで表現したりすることができる。 <p>【3段階】</p>	<p>手立て(・)及び配慮(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたや劇遊びの中で、教師が見本を示したり一緒にせりふを読ませたりして、繰り返し出してくるせりふに気がかせ、覚えさせる。 ・教師の代わりに友達に問題を出させることで、自分で動きや言葉を考えさせる。 ・せりふを言うことが難しい場合は、「こんなときには何て言うかな」と質問したり、教師と一緒に考えたりすることで、場面に合った登場人物のせりふを考えさせる。 ・自分なりに場面に合った声の大きさやせりふの言い方を考えさせる。 ・難しいときは見本を示したり、教師と一緒に工夫の仕方を考えたりする。 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎手の動きをつけながらわらべうたを一人で歌うことができている。また、劇遊びに出る自分のせりふを一人で言うことができている。 ○教師の見本を見たり声掛けを受けたりして、わらべうたを歌ったり、劇遊びに出るせりふを言ったりしている。 △わらべうたや劇遊びを楽しんだり一緒に声に出したりする姿が見られない。 <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎わらべうたに出る動物を表す擬音語や動きを自分で考えて表現している。また、劇遊びで、大きなかぶができたときに「わー！」と驚いたように言ったり、呼び掛けるときに、「おーい！」と遠くにいう相手を意識して呼び掛けたりするなど、自分なりに工夫して表現している。 ○教師と一緒に、わらべうたに出る動物を表す擬音語や動きを考えて表現している。また、劇遊びの教師の見本を見てせりふを言ったり、教師の動きをまねたりしている。 △教師の見本を見ても、わらべうたや劇遊びに出るせりふや動きを考えたり、前時と比べて新たな工夫をしてせりふを言おうとしたりする姿が見られない。
B児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせを聞いて「わー」と声を出したり次のページを期待しながら聞いたりするなど、最後まで話を楽しむことができる。 ・絵本の読み聞かせを聞いて、出てきた登場人物をいくつかが答えることができる。 ・短い言葉で相手に伝えようとするが、聞き取りづらい。 ・気持ちが高まったり、自分で身体を動かそうとしたりすると、筋緊張の強さから、過剰に力が入って自分で抜くことが難しい。 ・人の意見に同調することが多い。(特にA児の意見) 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場する動物の名前を答えたり、繰り返し出してくるせりふを自分から言ったりすることができる。 <p>【2段階】</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたに出る動物を言葉で表現したり、せりふを覚えて一人で言ったりすることができる。 <p>【2段階】</p>	<p>手立て(・)及び配慮(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示する動物を表すヒント(鳴き声、大きさ、動き)を聞いて、登場する動物が何かを考えさせる。難しい場合は、少したけ動物の人形を見せて考えさせる。 ・教師がせりふを強調したり抑揚をつけて読んだりすることで、繰り返しのせりふがあることに気がかせる。 ・A児が発表する場面を見せて教師と一緒に自分が発表する動物を考えさせることで、A児の意見を参考にしながら自分なりに考えさせる。 ・教師の言葉をまねさせたり、誰の次に言うのかを確認したりして、自分のせりふや流れを覚えさせる。 ・登場するタイミングやせりふを覚えることが難しい場合は、「次だよ」と声を掛けて合図を示したり、せりふを伝えたりして、確認させる。 ※本児の声が聞き取れるまで待つ姿勢を大切にすること。 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎わらべうたに出る擬音語を聞いて、どの動物を表しているのかを正しく答えたり、劇遊びで出てくる繰り返しのせりふ「うんとこしょ、どっこいしょ」を自分から声を出して言ったりしている。 ○教師から「わんわん」って鳴く動物は何か?等の言葉によるヒントを聞いたり、動物の人形を一部見たりして、登場する動物の名前を答えたり。また、劇遊びで、教師の合図を受け、繰り返しのせりふを言うことができている。 △教師の声掛けを聞いても答えを言ったり、繰り返しのせりふを言ったりする姿が見られない。 <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎わらべうたに出る動物の動きや鳴き声や擬音語で表現している。また、劇遊びで友達から呼び掛けられたときに、「はい! まかせて!」と一人でせりふを言ったり、かぶがぬけたときに自分から「やったー!」と言ったりしている。 ○教師と一緒に考えて動物の動きや鳴き声や擬音語で表現している。また、教師の合図を聞いて見本を見たりして、登場するとき、かぶがぬけたときの自分のせりふを言ったりしている。 △教師の声掛けを聞いても動物の動きや鳴き声を表す擬音語を考えたり、せりふを言ったりする姿が見られない。

C児	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な指示「手を挙げて」「○○をとって」などを聞いて、その通りに行動することができる。 ・絵本の読み聞かせを聞いて「わー」と声を発したり次のページを期待しながら聞いたりするなど、最後まで話を楽しむことができる。 ・一部発音が不明瞭な音がある。 ・話している相手への注意が十分に向かず、教師の言葉をまねることが難しいことがある。 ・教師や友達の質問を聞いて、そのまま同じ言葉を繰り返すことが多い。 ・人から注目されると、恥ずかしさから顔を隠して黙ってしまっていることがある。 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場する動物の名前を答えたり、繰り返して出てくるせりふを覚えて言ったりすることができる。 <p>【2段階】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場する動物が何か難しい場合は、少しだけ動物の人形を見せて考えさせる。 ・教師がせりふを強調したり抑揚をつけて読んだりすることで、繰り返しのせりふがあることに気付かせる。 ・教師が見本を示したり、友達の姿を見せたりして、呼び掛けられたとき、自分から呼び掛けるときにせりふを考えさせる。 ・一人でせりふを言ったり動きをつけたりすることが難しい場合は、教師がせりふを伝えたり、目の前で見本を示して黙ってしまったりするときは、顔を隠して黙ってしまったりするときは、登壇する順番を変え、気持ち落ち着くまで待つ。自分からせりふを言うことができるときは、大いに称賛することです。 	<p>(知識及び技能)</p> <p>◎わらべうたに出てくる擬音語を聞いて、どの動物を表しているのかを正しく答えている。また、劇遊びで出てくる繰り返しのせりふ「うんとこよ、どっこいしょ」を自分から声に出して言ったりしている。</p> <p>○わらべうたで、教師が示した動物の人形の一部を見て名前を答えている。また、劇遊びで、教師の合図を聞いて、繰り返しのせりふを言うことができている。</p> <p>△教師の声掛けを聞いても答えを言ったり、繰り返しのせりふを言ったりする姿が見られない。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>◎わらべうたに出てくる動物の動きや鳴き声を擬音語で表現している。また、劇遊びで友達から呼び掛けられたときに、「はーい」と返事をして一人で登場したり、友達を呼ぶときに「おーい！ てっだつて」と自分から友達を呼び掛けたりしている。</p> <p>○教師と一緒に考えたり見本を見たりして、わらべうたに出てくる動物の動きや鳴き声を擬音語で言ったり、劇遊びで友達を呼び掛けたりしている。</p> <p>△教師の見本を見てもまねたりせりふを言ったりする姿が見られない。</p>
D児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や教師の話に注意を向けることが難しい。 ・教師の言葉や動きをまねることが難しいが、教師に視線を向けたり、笑顔を見せたりすることがある。 ・自分から椅子に座ったり、長く座り続けたりすることが難しい。 ・名前を呼ばれたり、「おいで」と言われたりしたときに、視線を向けたり振り向いたりすることが確実でない。 ・嫌なことがあると、泣くことがある。 	<p>(知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の声掛けや動きに気付くことができる。 <p>【1段階】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前で名前を呼んだり、肩に触れたり、視線を向けるまで待たず、教師から呼ばれていることに気付かせ、教師の声や動きに注目させる。 ・「にやーにやー」など、動物を表す言葉を繰り返して伝えたり、繰り返しのせりふを強調して言ったりして、言葉の面白さに気付かせる。 ・教師の声掛けに応じたときは、その場で称賛することで、教師の指示とおりの行動であったことに気付かせる。 	<p>(知識及び技能)</p> <p>◎わらべうたに出てくる「にやー」「わんわん」などの言葉を見て、教師に一瞬視線を向けている。また、劇遊びで友達から名前を呼ばれたことに気付いて相手を一瞬見ることができている。</p> <p>○目の前で名前を呼ばれたり、身体に触れられたりして、教師や友達に呼ばれたことに気付かず、視線を向けていない。</p> <p>△教師の呼び掛けを聞いても視線を向けていない。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>◎わらべうたで登場する動物の人形を見たり教師の声掛けを聞いて声を出している。また、劇遊びで、繰り返しのせりふ「うんとこよ、どっこいしょ」の言葉を聞いて、楽しそうな表情が見られる。</p> <p>○教師の「いくよー」という声掛けを聞いて、名前を呼ばれたりして、登場するものを楽しみにして見たり、繰り返しのせりふを聞いていたりしている。</p> <p>△教師の声掛けを聞いても下を向いたり、動こうとすると姿が見られなかったりする。</p>

(2) 学習の展開

(別紙②)

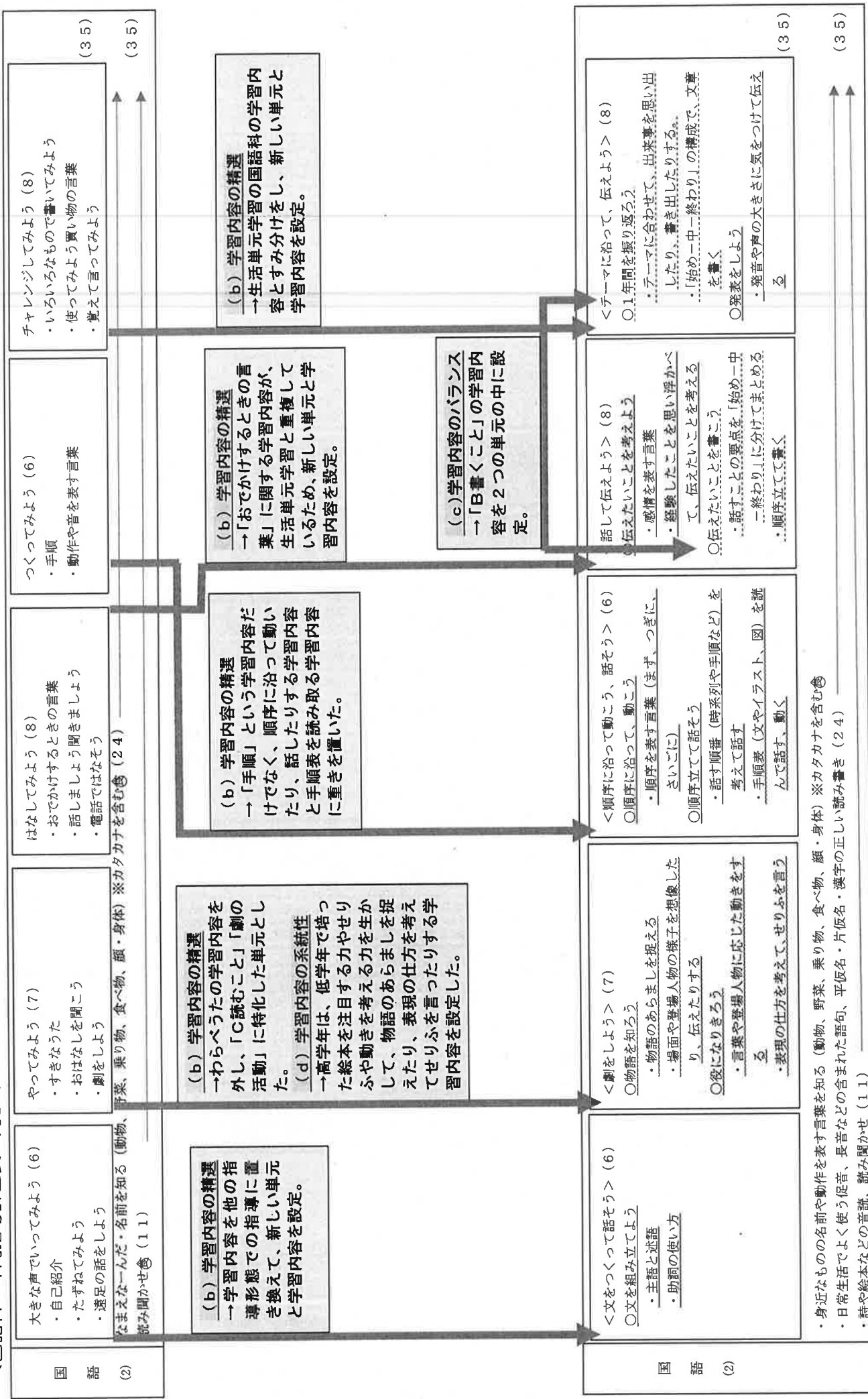
時間	学習活動	A	B	C	D	準備物
導入 10分	1 「にぎりばっちり」のわらべうた遊びをする。 ※対話的な学び ・教師の見本を見て考える。 ・友達の意見を聞いて考える。 ・教師や友達の姿を見て、自分も同じようにやってみる。	○教師が見本を示しまねさせ、言葉ややり方を確認させる。 ○手の中に動物の人形を隠し、隠れている動物は何か期待感をもたせ、教師の声掛けや動きに注目させる。 ○動物を表す擬音語を言ったあとに、何の動物を表しているかを考えさせる。(例：わんわん→犬) 擬音語が何の動物を表しているのか分からない時は、ヒントを提示する。	○教師やA児の手本を見て、動物を表す擬音語を考え、問題を出させ、難しいときは、「ねこは何か？」と質問して、泣き声をヒントに考えさせる。	○教師やA児の手本を見て、動物を表す擬音語を考え、問題を出させ、難しいときは、「ねこは何で鳴くかな？」と質問して、泣き声をヒントに考えさせる。	○隠れている動物の人形が登場するのを目の前で見せることで、出てくる動物に注目させる。 ○動物を表す擬音語（にや、わんわんなど）を一、繰り返し伝えることで、教師の言葉に注目させたり、まねさせたりする。	・動物の人形
展開 20分	2 本時の学習内容を知る。 ※主体的な学び（見通しをもつ） ・これまでの学習と本時の学習の確認をする。 ・本時の学習のめあてを知る。	○教師の手の動きや歌い方をまねさせる。慣れたきたら、教師の代わりに友達に問題を出させることで、動物を表す擬音語を考えさせたり、自分なりに動きをつけて表現させたりする。	○教師やA児の手本を見て、動物を表す擬音語を考え、問題を出させ、難しいときは、「ねこは何か？」と質問して、泣き声をヒントに考えさせる。	○教師やA児の手本を見て、動物を表す擬音語を考え、問題を出させ、難しいときは、「ねこは何で鳴くかな？」と質問して、泣き声をヒントに考えさせる。	○本時の学習の流れや単元計画表を用いて今日の学習のめあてを簡単に説明することで、活動の見通しをもたせる。 ○劇をしている様子を動画に撮って全員に見せることを事前に伝えることで、取り組みに意欲をもたせたり、最後に振り返りをする。 ●簡単なイラストを用いて説明できるようにする。	・単元計画表 ・学習のめあて
	3 全員で劇の練習をする。「5くみのおおきなかぶをやってみよう」	○それぞれ役のお面を付けることで、自分と友達の役を確認させる。 ○教師(T1)がナレーターをする。全員で言うせりふ「うんとこしょ、どっこいしょ」のときは、教師(T1)が「いくよー」と合図を示すことで、全員で声をそろえて読むことを意識させる。 ○できるだけ一人で前に出て取り組むように促す。せりふを言うことが難しいときは、「こんな時何て言うかな」と質問したり教師と一緒に考えたりすることで、場面に合ったせりふを考えさせる。	○せりふを忘れていたときは、教師がせりふの言い出しを伝えたり、教師の言葉を真似させたりする。	○誰の次に登場するのかを事前に伝えることで、自分の順番を確認させる。 ○「ねこの・・・くん」と呼び掛けることで、自分の名前が呼ばれたことに気付かせ、目の前で読んだり肩に触れたりする。	・お面 ・しっぽ ・大きなかぶ ・タブレット ・セラピーマント	

<p>※対話的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師との対話を手掛かりにせりふや動きを考える。 ・友達が劇をする姿を見て、自分のせりふや動きを考えたり、確認したりする。 <p>(児童のめあて)</p> <p>A：工夫してせりふを言おう。</p> <p>B：一人だけでせりふを言おう。</p> <p>C：自分から友達を呼ぼう。</p> <p>D：友達から呼ばれたときに友達を見よう。</p>	<p>○前時に自分が考えたりせりふの言い方を思い出しながらせりふを言わせる。難しい場合は、教師が手本を見せてまねをさせる。</p> <p>○自分なりにせりふの言い方を工夫する姿が見られたとき(簡単な身振りをつける、場面に合った声の大きさで言うなど)は、大いに称賛して自信をもたせ、フィードバックさせる。</p>	<p>○友達がせりふを言う場面注目にさせることで、物語の展開や自分が言うせりふを確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の順番に自分から気付いたことが実感できるように、友達から呼びかけられたときには、「はい！まかせて！」とせりふを言わせてから教師(T3)と一緒に友達のところへ移動する。 ●声が聞き取りづらいつきは、本児が言ったせりふどおりに教師(T3)が代弁する。 ●しつぽを引っ張る際は、教師(T3)が腕を援助して一緒に引っ張る。過度に姿勢が崩れてしまったときは整える。 	<p>○A児の動きを見せることで、自分が見せることに見通しをもたせたり、自分の動きを確認させたりする。</p> <p>○せりふや動きを忘れていたときは、教師(T1)が見本を示して確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●恥ずかしさから顔を隠して固まってしまうときは、順番を変え、登場できるまで待つ。 ●姿勢が崩れて倒れやすいため、教師(T2)が見守る。 	<p>○目の前で「おいで」と呼びかけたり、身振りで示したりして、呼びかけられていることに気がかせる。難しいときは、目的地に必ず置いて行く場所を明確にしたり、教師(T2)と一緒に相手のところへ行き、自分が行くべき場所を確認させたりする。</p> <p>○教師の動きをまねさせたり、教師(T2)と一緒に身体を動かしたりして、自分がすべき動きに気付かせる。</p>	<p>○よかったところ、次回頑張ったことを教師が伝え、今日の学習を振り返らせる。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>※主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を見て、よかったところや課題を振り返り、次の学習へつなげる。 	<p>○本時の取り組みを録画したものを見せ、振り返りをさせる。</p> <p>○本時の取り組みを称賛し、それぞれの学習のめあてにはなまるシールを貼ることで、達成感をもたせたり、次回の取り組みへの意欲を高めたりする。</p> <p>○今日のめあてから、何ができたか、何が難しかったかを教師と一緒に考え、発表させる。</p> <p>○動画を見て、友達のよかったところを発表させる。</p>	<p>○頑張ったこととは何か、自分で考えて発表させる。難しい場合は教師と一緒に考えたり、A児の意見を参考にさせたりする。</p>	<p>○よかったところ、次回頑張ったことを教師が伝え、今日の学習を振り返らせる。</p>	<p>○よかったところ、次回頑張ることを教師が伝え、今日の学習を振り返らせる。</p>

・単元計画表
・学習のめあて

<p>国語 (2)</p>	<p>なかよくなるよう (5) ・あいさつしよう ・わたしたちのいちにち</p>	<p>やってみよう (6) ・わらべうた、まねをしよう ・劇あそび</p>	<p>はなしてみよう (8) ・おでかけするときの言葉 ・話しましょう聞きましょう</p>	<p>つくってみよう (6) ・手順 ・動作や音を表す言葉</p>	<p>チャレンジしてみよう (8) ・いろいろなもので書いてみよう ・使ってみよう面白い物の言葉 ・覚えて言ってみよう</p>
<p>季節 春 (1) なまな一んだ・名前を知る (自分の名前・友達の名前、動物、野菜、乗り物、食べ物、顔・身体) ⑤ 読み聞かせ ⑤ (1 1)</p>	<p>季節 夏 (1)</p>	<p>季節 秋 (1)</p>	<p>季節 冬 (1)</p>	<p>(3 5) (3 5)</p>	
<p>国語 (2)</p>	<p>ことばあそびをしよう > (5) ○ことばであそぼう ・音まね、声まね遊び (擬声語や擬態語を使った遊び) ・わらべうた ○ことばであらわそう ・動物の鳴き声、乗り物の音、いろいろなものの音</p>	<p><劇をしよう > (6) ○物語に親しもう ・絵本の中の事物や出来事に注目する ・絵本を見て、登場人物のせりふや動きを模倣する ○役になつてみよう ・簡単なせりふや動きを考える、表現する</p>	<p><話してみよう1 > (6) ○おはなしてきるかな ・身の回りで使う挨拶の言葉 (お出かけ、買い物、遊びのときなど) を知る、使う ・欲しい物やしたい遊びを身振りや音声で伝える <書いてみよう > (2) ○おてがみを書こう ・自分の名前を書く ・簡単な挨拶を考えて書く。 (ありがとう、おめでとう等)...</p>	<p><聞いて動こう、読んで動こう > (7) ○聞いて動こう ・動作を表す言葉を知る ・簡単な指示を聞いて動く ○読んで動こう ・絵や写真を見て、次の場面に期待したり、場面の速いを促えたりする ・絵や写真を見て、順番どおりに動く</p>	<p><話してみよう2 > (5) ○くわしくはなそう ・状態や様子を表す言葉 (りんごはまるい、あまい等) を使った表現を知る、使う ・絵や自分の写真を見て、「誰がどうした」と言葉で表す ○経験したことを書こう ・自分が経験したことを思い出し、伝えたいことを思い浮かべる、選ぶ ・経験したことを簡単な文 (誰がどうした) で書く</p>
<p>(b) 学習内容の精選 → 学習内容を他の指導形態での指導に置き換えて、新しい単元と学習内容を設定。</p>	<p>(b) 学習内容の精選 → わらべうたの学習内容を外し、「C読むこと」「劇の活動」に特化した単元とした。 (d) 学習内容の系統性 → 低学年は、絵本に注目することから学習を始め、せりふや動きの模倣、簡単なせりふや動きを考え、学習内容とした。</p>	<p>(c) 学習内容のバランス → 「B書くこと」の学習内容を2つの単元の中に設定。</p>	<p>(b) 学習内容の精選 → 「手順」という学習内容よりも、場面の移り変わりを捉えたり、順序どおりに動いた学習内容とした。</p>	<p>(b) 学習内容の精選 → 生活単元学習の国語科の学習内容とすみ分けをし、新しい単元と学習内容を設定。</p>	
<p>季節 春・夏・秋・冬 (4) ・状態を表す言葉を知る (暑い寒いなど) ・季節を表す言葉</p>	<p>身近なものの名前を知る (動物、野菜、乗り物、食べ物、顔・身体) ⑤ ・運筆、平仮名の読み書き、日常生活でよく使う促音、長音などの含まれた語句 (2 4) ・詩や絵本などの音読、読み聞かせ、わらべうた (1 1)</p>	<p>季節 春・夏・秋・冬 (4) ・状態を表す言葉を知る (暑い寒いなど) ・季節を表す言葉</p>	<p>季節 春・夏・秋・冬 (4) ・状態を表す言葉を知る (暑い寒いなど) ・季節を表す言葉</p>	<p>季節 春・夏・秋・冬 (4) ・状態を表す言葉を知る (暑い寒いなど) ・季節を表す言葉</p>	
<p>※ < > ……単元名 ○ ……題材名 ……学習内容</p>	<p>A 聞くこと・話すこと</p>	<p>B 書くこと</p>	<p>C 読むこと</p>	<p>C 読むこと</p>	

<国語科 年間指導計画表 高学年 4・5・6年生>



※ <...単元名 ○...題材名 ...学習内容 A聞くこと・話すこと B書くこと C読むこと